

平成29年度 第3回キッズ・モニターアンケート 「障がいについて」実施報告

アンケートの実施結果は以下のとおりでした。

キッズ・モニターのみなさん、ご協力ありがとうございました。

実施概要

実施期間	平成29年9月21日（木）から10月9日（月）まで
実施方法	インターネットによるモニターアンケート調査
質問数	全10問

回答状況

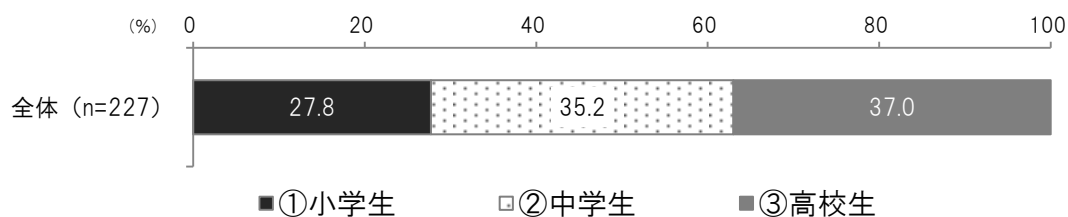
	小学生	中学生	高校生	総計
登録者数（人）	101	153	284	538
回答者数（人）	63	80	84	227
回答率（%）	62.4	52.3	29.6	42.2

調査結果

Q1 あなたの年代について【一つ選ぶ】

あなたの年代はどれですか。

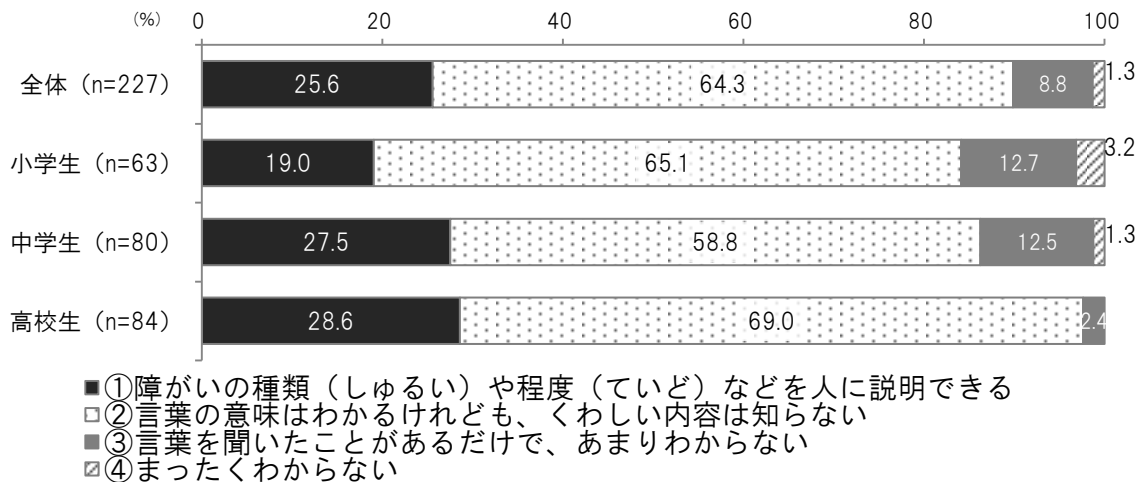
アンケート回答者の年代は、小学生 27.8%（63人）、中学生 36.2%（80人）、高校生 37.0%（84人）でした。



Q2 障がいについて【一つ選ぶ】

あなたは、障がいについて、どのぐらい理解（りかい）していますか。

最も多い回答は、「言葉の意味はわかるけれども、くわしい内容は知らない」で約 6 割を占めており、すべての年代において、ほぼ同様の結果となりました。

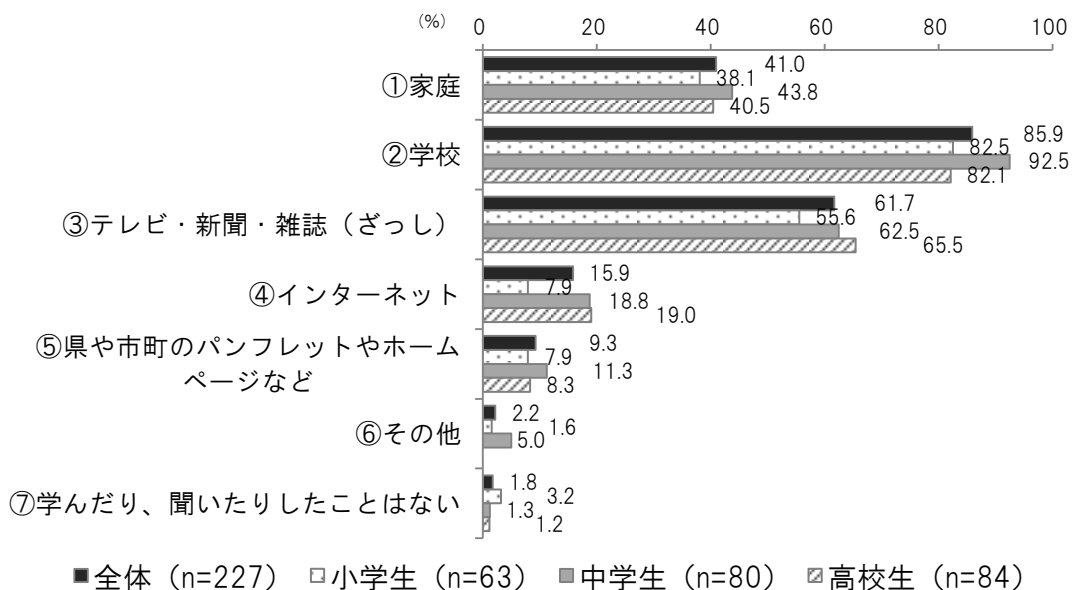


Q3 障がいのことを知る機会について【複数回答可】

あなたは、障がいや障がいがある人のことを、どこで学んだり、聞いたりしましたか。あてはまるものをすべてえらんでください。

最も多い回答は「学校」で、約 8 割～ 9 割の回答者がこの選択肢（せんたくし）を選んでおり、次いで、「テレビ・新聞・雑誌（ざっし）」が約 6 割という結果でした。

また、すべての年代において、ほぼ同様の結果となりました。

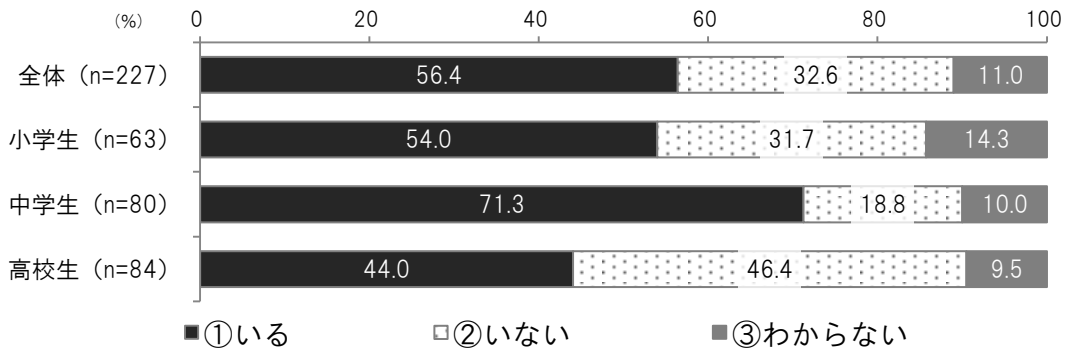


Q4 障がいのある人とのかかわりについて < 1 > 【一つ選ぶ】

あなたのまわりに障がいのある人はいますか。

まわりに障がいのある人が「いる」と回答した人は6割弱で、「いない」と回答した人は3割強という結果でした。

また、年代別では「いる」との回答が最も高いのは、中学生（約7割）という結果となりました。

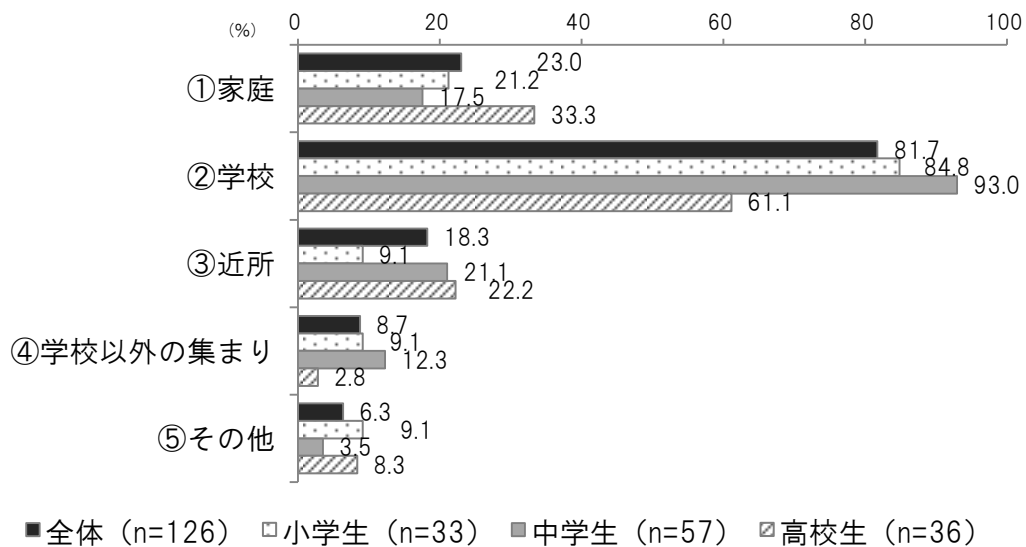


Q5 障がいのある人とのかかわりについて < 2 > 【複数回答可】

Q4で「いる」と答えた人にお聞きします。その障がいのある人とは、どのような場所で知り合いましたか。あてはまるものをすべてえらんでください。

最も多い回答は「学校」で、約8割の回答者がこの選択肢を選んでおり、他の選択肢は2割前後という結果となりました。

また、すべての年代において、ほぼ同様の結果でした。



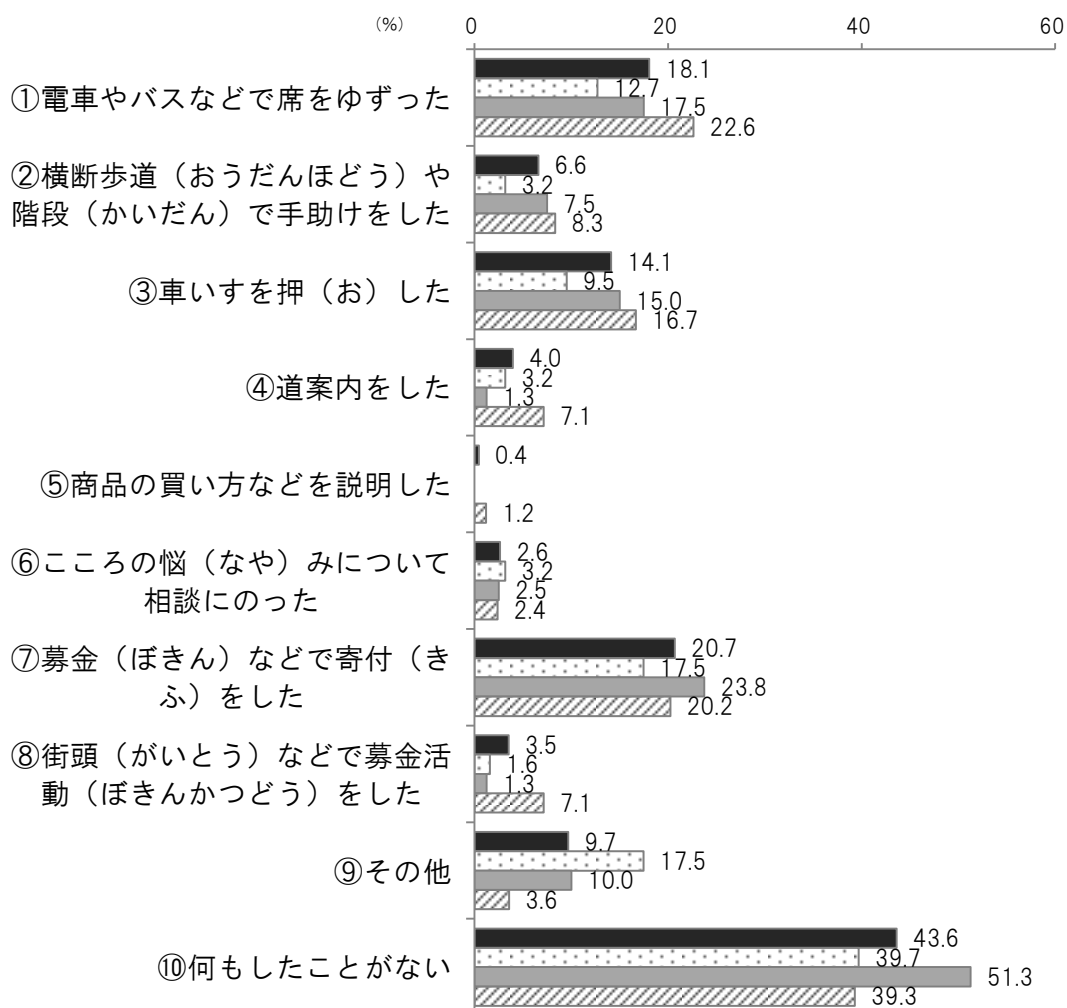
Q6 障がいのある人の支援について<1>【複数回答可】

あなたは、障がいのある人に対して、手助けなどをしたことがありますか。あてはまるものをすべてえらんでください。

最も多い回答は「何もしたことがない」で、約4割の回答者がこの選択肢を選んでおり、次いで「募金（ぼきん）などで寄付（きふ）をした」が約2割、「電車やバスなどで席をゆずった」が2割弱という結果となりました。

また、すべての年代において、ほぼ同様の結果でした。

その他では、「クラスでその子に協力している」、「ゆっくり話した」、「授業の手伝い」、「職業体験で障がい者施設に行っているいろいろな介助体験をした」、「弟のお風呂の手伝いや助けをした」などの回答がありました。



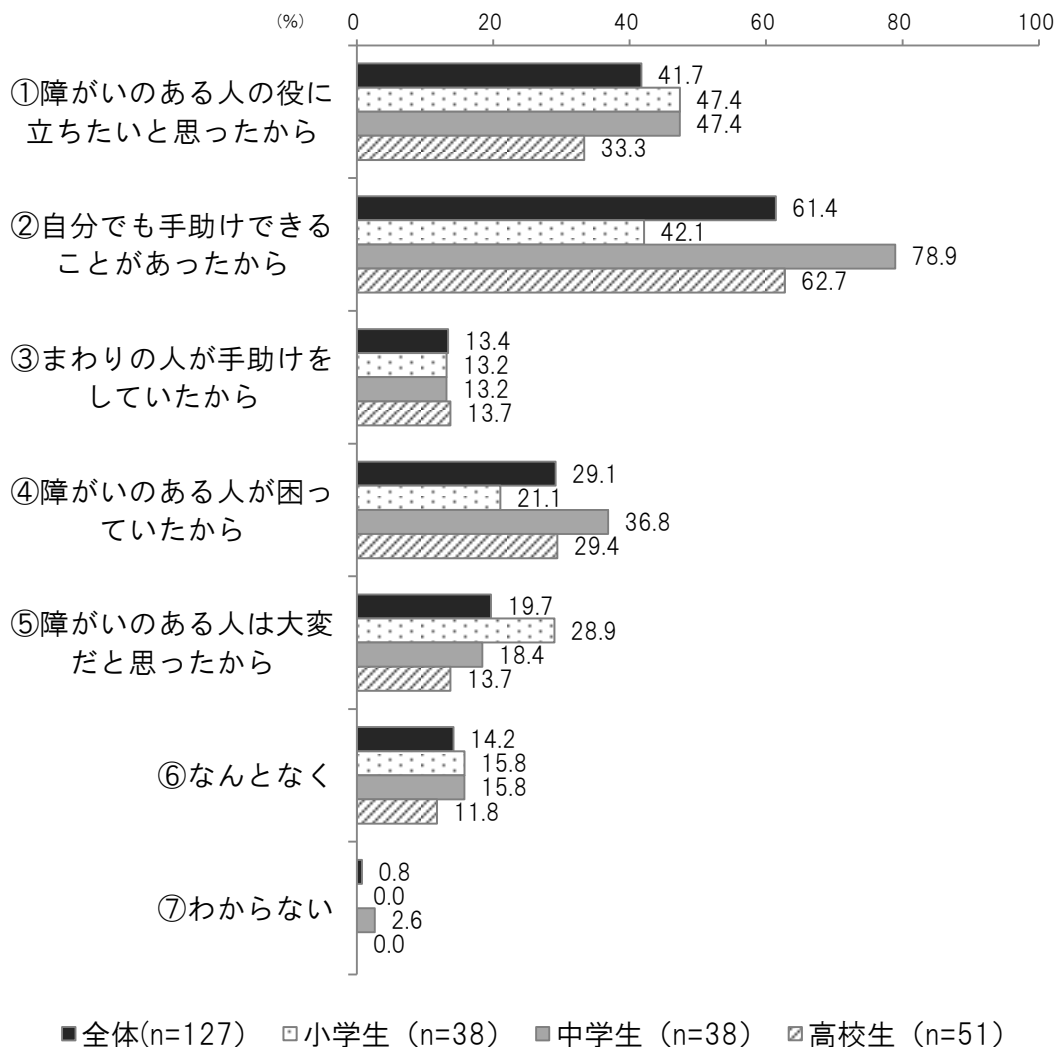
■全体(n=227) □小学生 (n=63) ■中学生 (n=80) ▨高校生 (n=84)

Q7 障がいのある人の支援について<2>【複数回答可】

Q6で障がいのある人の手助けをしたことがあると回答した人（何もしたことがない以外の回答をした人）にお聞きします。それはどのような気持ちからでしたか。あてはまるものをすべてえらんでください。

Q6で障がいのある人に対して支援をしたことがあると回答した人に、その理由をたずねたところ、最も多い回答は「自分でも手助けできることがあったから」で、約6割の回答がありました。

また、年代別でみると、「自分でも手助けできることがあったから」については小学生が約4割であったのに対し、中学生は約8割、高校生は約6割という結果になりました。

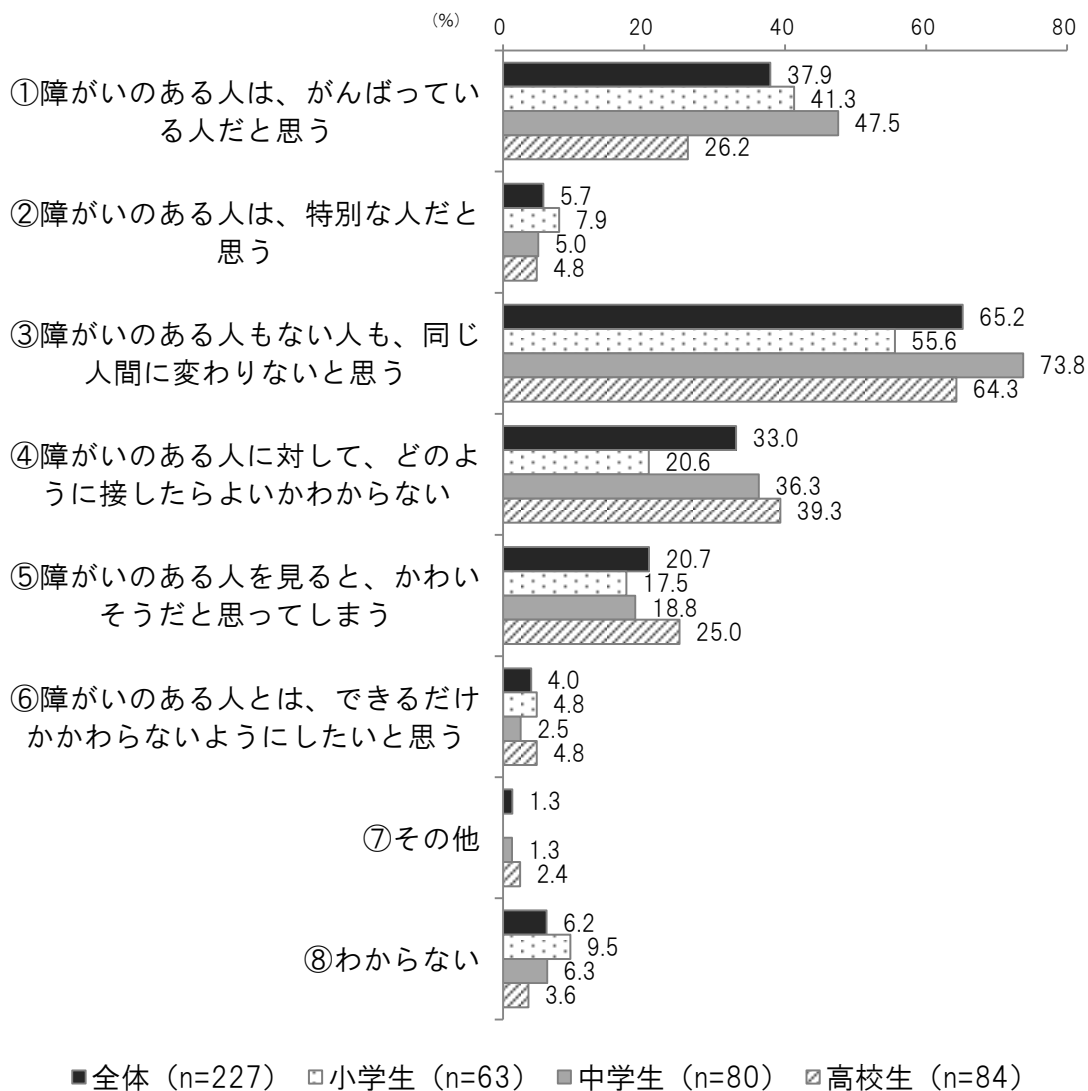


Q8 障がいのある人に対する考え方について【複数回答可】

あなたは、障がいのある人に対して、つぎのような考えをもったことはありますか。
 あてはまるものをすべてえらんでください。

最も多い回答は「障がいのある人も、同じ人間に変わりないと思う」で、約6割の回答者がこの選択肢を選んでおり、次いで「障がいのある人は、がんばっている人だと思う」が4割弱という結果となりました。

すべての年代において、ほぼ同様の傾向がみられますが、小学生の回答は「障がいのある人に対して、どのように接したらよいかわからない」の回答率が低く、一方で、高校生の回答は「障がいのある人は、がんばっている人だと思う」の回答率が低い結果となりました。

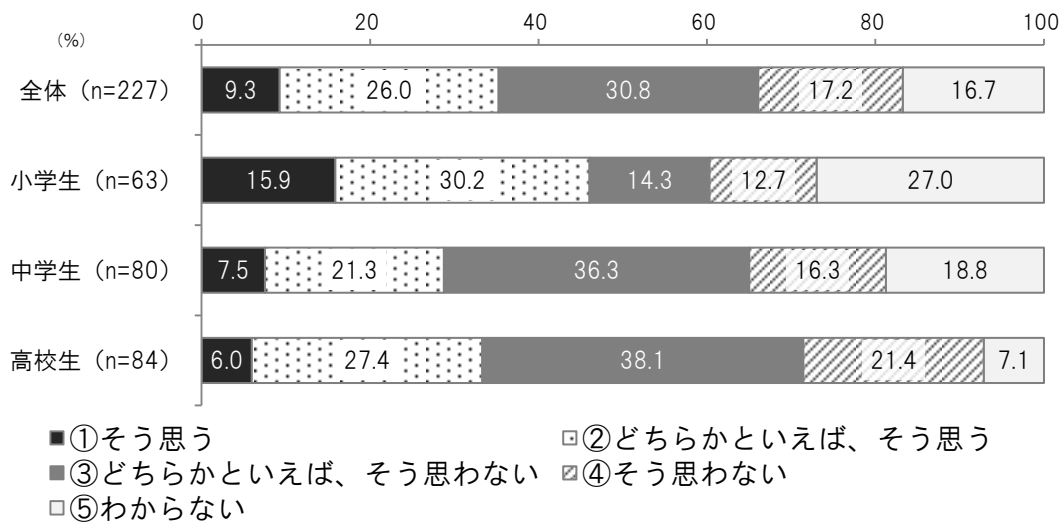


Q9 障がいのある人への差別・偏見のない社会について<1>【一つ選ぶ】

あなたは、現在（げんざい）障がいのある人に対する差別（さべつ）や偏見（へんけん）のない社会になっていると思いますか。

最も多い回答は、「どちらかといえば、そう思わない」で約3割を占めています。

また、年代別では、小学生は「どちらかといえば、そう思う」が最も多い回答となっている一方で、中学生や高校生は「どちらかといえば、そう思わない」が最も多い回答でした。



Q10 障がいのある人への差別・偏見のない社会について<2>【複数回答可】

Q9で「どちらかといえば、そう思う」、「どちらかといえば、そう思わない」、「そう思わない」と回答した人にお聞きます。

あなたは、障がいのある人への差別（さべつ）や偏見（へんけん）をなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものをすべてえらんでください。

「学校で障がいについて話し合うこと」と「障がいのある人とない人が、いっしょに活動する機会をつくること」が最も回答数が多く、5割～6割の回答者がこの選択肢を選んでいきます。

次いで「障がいのある人から、直接（ちよくせつ）話を聞くこと」が、4割強という結果となりました。

すべての年代において、ほぼ同様の傾向がみられますが、「家庭で障がいについて話し合うこと」は、小学生が2割弱に対して、中学生は約3割と少し差がみられました。

